

令和5年度武蔵野市子どもの学習・生活に関する調査報告書（概要版）

令和6年1月 教育企画課発行

1 調査実施の目的

市立小中学校に在学する児童・生徒の学習や生活に関する意識や現状、同保護者の学校教育に関する考えや子どもとの関わり方、教員の児童・生徒との関わり方や家庭や地域との連携に関する意向を把握することで、第四期学校教育計画及び第六次子どもプラン武蔵野の策定のための基礎資料とする。

なお、毎年度行われている「全国学力・学習状況調査（国）」や「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）」等の質問項目と比較して、本調査の質問項目を精査することで、回答者及び学校の負担軽減を図った。

2 調査の対象

市立小学校6年生及び中学校3年生とその保護者。市立小中学校の全教員。

＊対象学年が兄弟姉妹にいる場合、保護者は長子について回答する。

3 調査方法と回収状況

【調査方法】

調査期間	児童・生徒 保護者	令和5年6月20日～7月25日
	教員	令和5年7月20日～8月25日
調査方法	WEBアンケート調査（無記名） ・児童・生徒については、授業時間中の回答が難しい場合、休み時間や帰宅後等に各自で回答することも可能とした。	

【回収状況】

調査対象		調査対象者数	有効回収数	有効回収率
児童・生徒	小学校6年生	1,191人	831件	69.8%
	中学校3年生	747人	243件	32.5%
保護者		1,938人	1,054件	54.4%
教員		471人	313件	66.5%

＊調査対象者数は、それぞれ令和5年5月1日現在。また、保護者については対象学年の兄弟姉妹の確認が困難であるため、対象学年の児童生徒数を合算した数としている。

4 主な質問と回答

【児童・生徒】

(1) 学校で楽しいと思うこと（3つまで選択）

■小学校6年生

	内容	%
1	友達と遊んだり、おしゃべりをしたりしているとき	76.7
2	好きなことをして、のんびりと過ごしているとき	60.0
3	給食を食べているとき	26.8

■中学校3年生

	内容	%
1	友達と遊んだり、おしゃべりをしたりしているとき	80.2
2	好きなことをして、のんびりと過ごしているとき	48.1
3	授業中に問題が解けたとき	27.6

(2) 学校で「もっとやってほしいこと」や「やってみたいこと」（5つまで選択）

■小学校6年生

	内容	%
1	学習者用コンピュータなどを使って自分が興味のあることを調べること	40.0
2	動画や映像作品をつくったり、プログラミングでアプリやゲームを作ったりすること	39.1
3	いろいろな学年や学級の子どもたちと学んだり遊んだりして交流すること	31.4

■中学校3年生

	内容	%
1	いろいろな学年や学級の子どもたちと学んだり遊んだりして交流すること	35.8
2	プロの音楽家の演奏を聴いたり、美術作品を見たりすること	28.8
3	スポーツ選手といっしょに体を動かしたり、話を聞いたりすること	28.0
	動画や映像作品をつくったり、プログラミングでアプリやゲームを作ったりすること	

【保護者】

(1) 学校で「もっと進めてほしいこと」や「取り組んでほしいこと」（あてはまるもの全て）

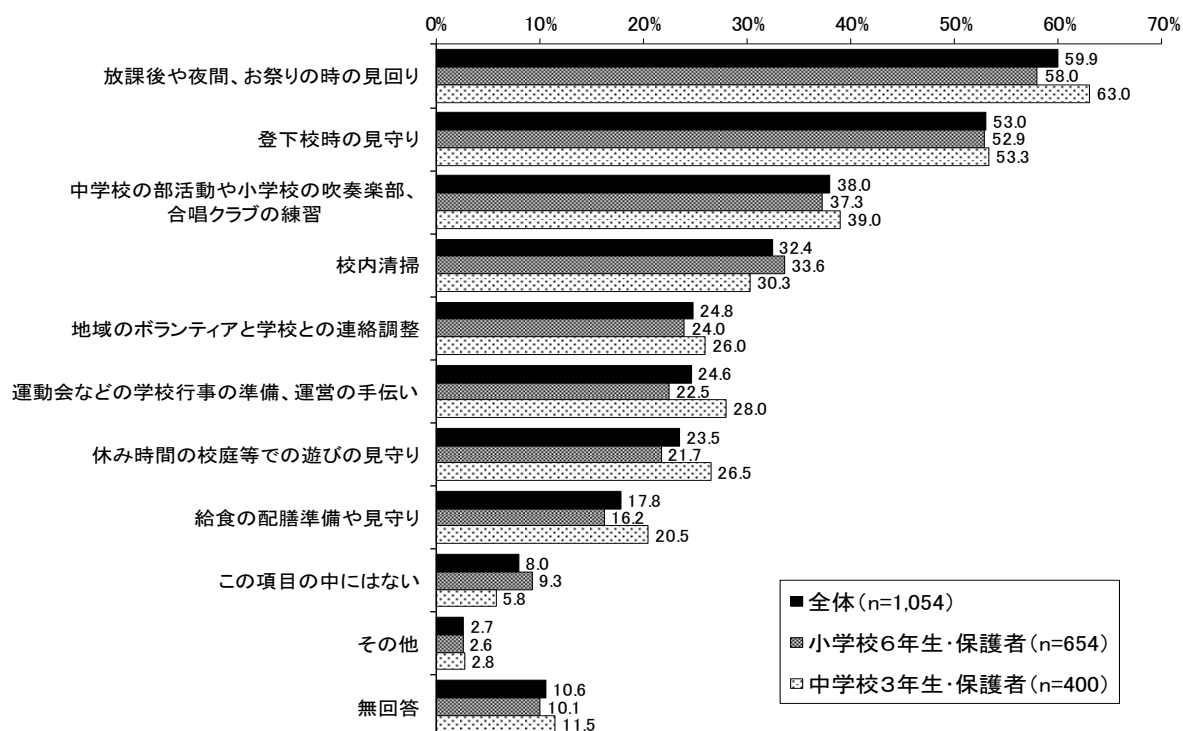
■小学校6年生の保護者

	内容	%
1	生徒指導の充実（子どもが主体的に考え、行動する力の育成、いじめの未然防止・早期発見や対応、自己肯定感の向上など）	63.0
2	子どもの興味・関心等に応じた学びとさまざまな人々と関わったり協力したりする学びの充実	62.8
3	働き方改革の推進（教員を支える人員体制の確保や業務改善、部活動のあり方の検討など）	56.3

■中学校3年生の保護者

	内容	%
1	生徒指導の充実（子どもが主体的に考え、行動する力の育成、いじめの未然防止・早期発見や対応、自己肯定感の向上など） 子どもの興味・関心等に応じた学びとさまざまな人々と関わったり協力したりする学びの充実	59.0
2	—	—
3	働き方改革の推進（教員を支える人員体制の確保や業務改善、部活動のあり方の検討など）	55.8

(2) 必ずしも学校が担う必要が無いと思うもの（あてはまるもの全て）



【教員】

(1) 仕事のやりがいや充足感を感じる時（あてはまるもの全て）

■小学校の教員

	内容	%
1	受け持っている子どもの成長を感じたとき	87.8
2	子どもや保護者から感謝の言葉を述べられたとき	76.0
3	同僚や管理職から自分の仕事が認められたとき	61.8

■中学校の教員

	内容	%
1	受け持っている子どもの成長を感じたとき	82.4
2	子どもや保護者から感謝の言葉を述べられたとき	74.5
3	学校行事や大きな取り組みがうまくいったとき	54.9

(2) 今後、学校教育で「もっとやっていくとよい」と思うもの（あてはまるもの全て）

■小学校の教員

	内容	%
1	働き方改革の推進（教員を支える人員体制の確保や業務改善、部活動のあり方の検討など）	81.7
2	特別支援教育の推進（ユニバーサルデザインにもとづく学習指導、特別支援教室の充実など）	67.6
3	多様性を生かした学び（学級活動や児童会・生徒会における話し合いを通じた合意形成など）	66.4

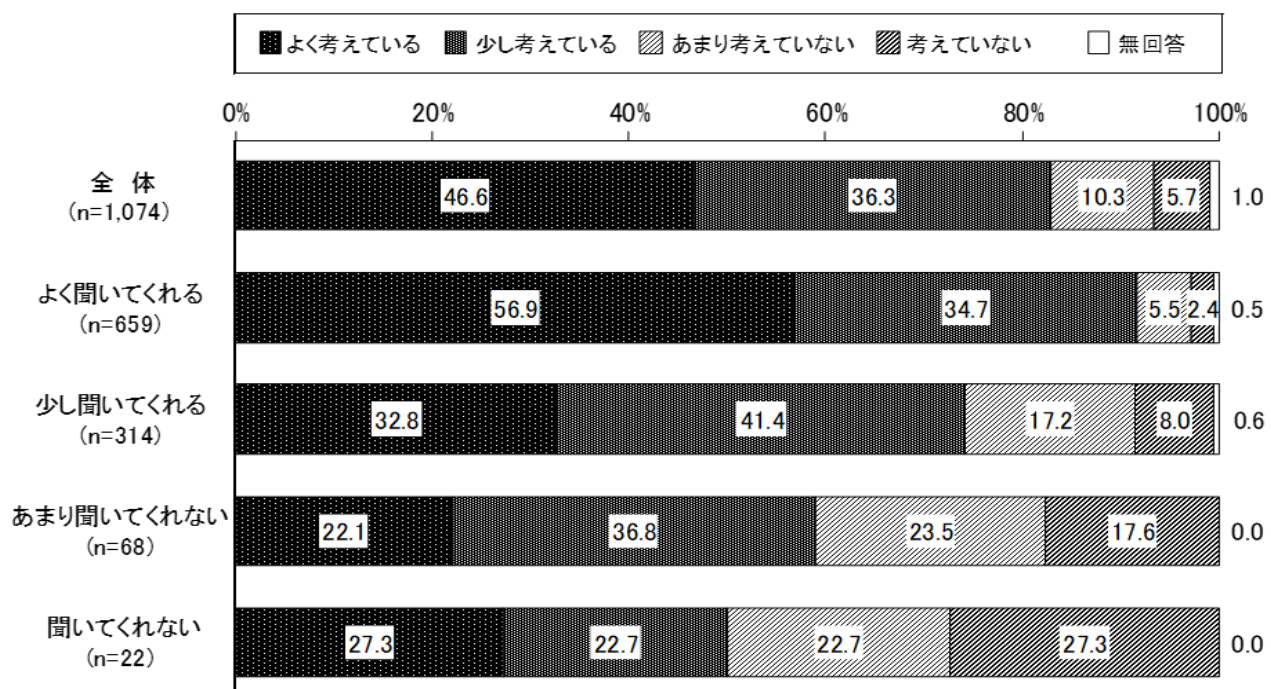
■中学校の教員

	内容	%
1	働き方改革の推進（教員を支える人員体制の確保や業務改善、部活動のあり方の検討など）	86.3
2	不登校児童生徒への支援（子どもの居場所づくり、SCやSSWなど関係機関、NPOなどとの連携など）	68.6
3	学習の基盤となる資質・能力の育成（言語能力や情報活用能力の育成など） 生徒指導の充実（子どもが主体的に考え、行動する力の育成、いじめの未然防止・早期発見や対応、自己肯定感の向上など）	64.7

【児童・生徒 クロス集計】

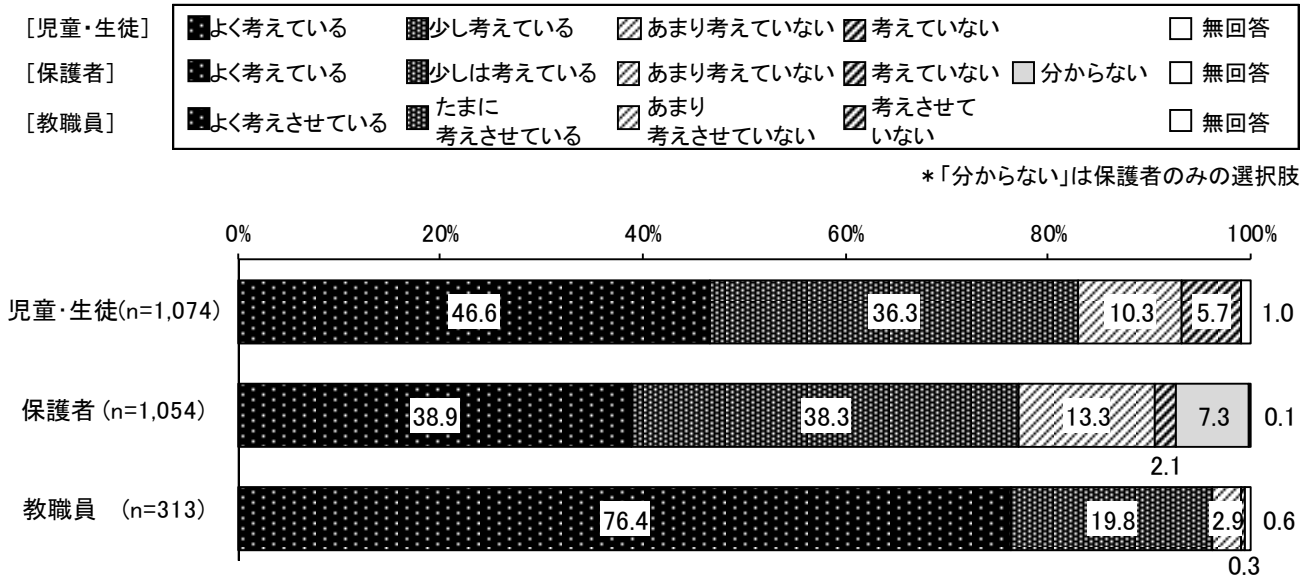
(1) 学校の取り組みや行事のときに目的や目標を考えているか（下表ヨコ）

先生たちがアイディアや考えを聞いてくれるか（下表タテ）



【児童・生徒、保護者、教員の比較】

(1) 学校の取り組みや行事のときに目的や目標を考えているか／考えさせているか



【保護者、教員の比較】

(1) 学校に協力できること／保護者、地域、専門家の協力を得たい取り組み（あてはまるもの全て）

